

(様式1)学校評価

<評価:A(1・2) B(3) C(4・5) 数字はアンケート結果を加味する場合>

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇PDCAサイクルを生かし、教育活動の質の向上に取り組む。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・学校経営方針に従い、本年度の重点である道徳教育や読書教育に係る活動を時間割に位置づけて実施するなどして、特色ある教育課程を実現できた。 ・学習指導については、教科部会で協働的に授業力向上に努め、指導と評価の一体化にせまることができた。	A	・本年度の取組を継続するとともにPDCAサイクルを機能させて、教育活動の一層の質の向上を図る。	・読書活動の推進はとてもよい。長期計画であせらずに取り組んでいることもよい。教師の熱量は生徒にも伝わるので、ぜひ継続をしてほしい。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇各校務分掌のリーダーを中心として組織的・機能的な運営に取り組む。	適材適所 研修の充実 働き方改革	・教職員の専門性・キャリア段階等を生かした校務分掌配置により、各教育活動の質的向上を図ることができた。 ・通常学級における女性職員がやや少なく、旅行的行事等では対応が難しい面があった。 ・有識者を招いて校内研修を実施するなど、現職教育の充実を図ることができた。 ・年間の授業時数を見通して授業数を見直すなど具体的な業務改善を行ったが、教職員からは依然として「多忙感がある」との意見が多かった。	A	・外部機関等と適切に連携を図ることで、働き方改革を推進し、教職員が「生徒と向き合う時間」を確保できるようにする。	・働き方改革は、教育現場だけに限らず社会全体での取り組みでもあるので、検討してほしい。
	環境整備	○◇校内外の整理整頓、環境整備に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・設備や教室配置等に大きな問題はなく、また、生徒の清掃活動等への取組も概ね良好であった。 ・修繕箇所については、市教育委員会と連携を図った。	B	・今後も定期的・日常的に適切に安全点検を実施することにより、生徒の安全な学びの場を保障するとともに、環境緑化(花の咲く学校づくり)に一層力を入れる。	・今後も、多くの花が咲く学校づくりを推進してほしい。
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇教育課程に位置付け、各教育活動のねらいの達成のに向けた効果的な地域資源の活用を進める。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・新規事業を含めて、地域の人的・物的資源を活用した地域連携活動を実施した。 ・学校運営協議会等における「熟議」を、実際の活動に結びつけることができた。	A	・今後も教育課程に位置づけた地域連携活動の推進を図るとともに、学校から地域に発信する活動を工夫して、双方向性のある活動を目指す。	・外部人材に入ってもらうことによって、自己肯定感の向上にもつながっている。「認められる」ことが学校、家庭、地域でも大切である。

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
知の教育	学習指導・各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇主体的・対話的で深い学びの実践に向けた授業の改善に取り組む。 ◇学校課題の追究を中心に、全校体制で道徳科授業の指導技術の向上に取り組む。	主体的・対話的・深い学び	・落ち着いた雰囲気では授業に参加したり、積極的に話し合いながら活動したりする様子が多くの場面で見られるので、広げていきたい。 ・すべての生徒が主体的に取り組めたり、対話の内容をより深めていくための手立てを講じていきたい。 ・道徳科の授業については、各学年で十分検討したうえで実施することができた。	A	・めあての提示を工夫することで、生徒のやる気や興味を引き出し、学ぶ意欲の向上につなげる。 ・振り返りの活動から、次時への関心をもたせる工夫を行う。	・学びの楽しさを引き出してほしい。ぜひ先生方が情熱をもって取り組んでほしい。
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用に取り組む。 ◇各教科・領域におけるICTの活用方法の研究を進める。	プログラミング教育 情報活用能力	・各教科でレポートの作成や発表など様々な場面で活用されており、生徒の情報活用能力も向上している。一方、モラルリテラシーの指導や、使用場面の厳選などには課題がある。	B	・情報モラルに関する指導を定期的に行い、職員側も活用能力の向上を図った研修を行っていく。 ・不登校生徒への学習支援や、家庭学習へのICT機器の活用を進める。	・SNSで誤解を招きトラブルになることがあると聞いている。読書活動は、こういったトラブル回避に効果があると思う。
	国際理解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。 ◇自他の文化や情勢に興味・関心を持ち、物事を多角的に見る幅広い視野をもちながら、自他の違いを認め合える生徒の育成に取り組む。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	・英語科を中心にALTの活用や異文化理解に関する内容を扱っている。一方で、生徒の英語によるコミュニケーションの必要性に対する意識の高まりは十分ではない現状が見られる。	B	・各教科においても幅広く異文化理解に関する内容を関連付けてふれられるようにする。 ・市海外派遣事業の報告会を校内でも行ったり、生徒会活動を通して国際理解に関する取り組みを充実させていく。	・広い視野をもった生徒の育成のためにも、継続して取り組んでほしい。
心の教育	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇「居心地のよい学校」をめざし、生徒の自己指導能力の育成に取り組む。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	・否定的な言葉ではなく、できていることを褒めたり、内省を促したりするような言葉かけをする教師が増えてきた。より良い自己実現のために必要なことを自分で考え、判断し、行動できる生徒の更なる育成を目指したい。 ・いじめに対しては、対策委員会を中心に組織的に対応し、解決を図ることができた。学習への不適応、人間関係の不適応等から不登校傾向を示す生徒が増えてるのが課題である。そのような生徒にじっくり対応する時間的な余裕も少ない。	A	・自己指導能力の向上という視点に立って、すべての教育活動を見直していく。教師が先回りして指示を出したり、考えさせずに行動を制限したりするのではなく、必ず自己決定の場を設け、目指す自分像の実現のために努力できるようにする。 ・不適応傾向の生徒の早期発見と早期対応ができるように、心の健康観察や生活記録ノート等を活用し生徒理解に努める。更に自己理解を深めさせるために、授業だけでなく、すべての教育活動において振り返り活動を重視する。 ・不登校傾向の生徒に対して、オンライン授業の更なる充実と、課題の出し方の工夫を通して、学びの保障と適切な評価を図る。	・生徒指導等を中心にしっかりと研修が行われている。 ・校内支援センターの活用を進めてほしい。

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
	特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見もち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇一人一人の教育的ニーズを把握し、必要な支援や適切な指導に取り組む。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	・特別支援学級の生徒の交流活動によって、異なる意見を受け入れる寛容さや個性を認め合う雰囲気が醸成されている。通常学級の生徒同士でも同様にできるよう、生徒同士の意見交換の場が意図的に設けられる等、学級担任、教科担任による工夫がされている。 ・視覚優位、聴覚優位等、様々な背景をもつ生徒の立場に立って、多様なアクセシビリティが準備されるようになってきた。ユニバーサルデザインの授業ができるよう、さらに学習環境を整えたい。	B	・相手の意見を受け入れつつも、自分の考えを主張できる生徒を育成するため、今まで以上に意見交換をしたり、議論をしたりする場を設定する。折り合いをつけ、納得解を見いだせる集団作りのため、生徒会活動を中心とした生徒主体の学校づくりを図る。 ・学習課題の出し方や解決の仕方を、個々の得意、不得意に合わせて、複数の方法を準備する。ハード面、ソフト面の両方において、ユニバーサルデザインの学習環境を整える。	・一人一人を認め合うためにも、継続して取り組んでほしい。
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇担任と養護教諭、生徒指導係、SC等との連携を密にし、生徒一人一人の心身の健康管理と適切な支援に取り組む。	保健教育 保健管理	・健康観察の記録状況は、担任によって温度差がある。自分の体調を言いにくい雰囲気があるかもしれない。 ・保健室では、自分の体調・ケガの状況を生徒に考える指導を行っている。 ・心の健康観察は、生徒の心理状況や様々な生徒指導事案の早期発見、早期解決につながっていた。	A	・みんなの前で自分の体調を言いにくい場合には、担任の先生の直接言うようにする。 ・健康管理について考えさせる指導や心の健康観察は、今後も継続していきたい。	・心の健康観察はよい取り組みである。今後も、継続して取り組んでほしい。
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇自らの危険を予測・回避でき、健康で安全な生活を送ることができる生徒の育成に取り組む。	危機管理 生活・交通・災害安全	・下校時のたすき着用が徹底できていない。特に、バス通学の生徒がバスに乗りするとたすきを外してしまう傾向が見られた。学校から家まで安全に帰宅できるよう、たすきの着用を徹底する。 ・スケアードストレイト(交通安全教室)で、安全意識は高まった。課題としては、高まった意識をどうしたら継続できるか、指導の仕方の工夫が必要である。	A	・たすきの着用は、何のために必要なのか、生徒と確認する機会を設定する。昨年度行った安全委員会のたすけの呼びかけを今後も継続して実施する。	・安心・安全な学校づくりを推進してほしい。
	食に関する指導	○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる生徒の育成に取り組む。	給食管理 アレルギー	・職員間で生徒のアレルギー情報の共有が細かいところまでできていない。年に1度のアレルギー情報共有では足りないのではないか。年に数回行い、情報の共有を徹底すべき。	B	・職員間での情報共有の徹底を行う。来年度から給食のアレルギー対応システムが変わるために今までアレルギー指導給食を食べていた生徒の原因食物が給食で提供されないことから、アレルギーとなる原因食物が不明確にあるおそれがある。 ・校外に出て時こそ、情報の共有を職員間で行うべき。また生徒自身もアレルギー管理ができるような指導を行う。	・命にかかわることなので、継続して取り組んでほしい。